

もみじ

—広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟
〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17
電話・FAX (082) 296-5597
E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp
URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>
郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 登山教室 (7/19 二葉山～二ツ城山) 報告
2. 芹澤雄二さんの投稿紹介
3. 第2回連盟写真展案内
4. 連載『幸せの国ブータン王国滞在記もろもろ』⑦
5. 岳連短信 (寄贈御礼、賛助会員ご協力へのお礼)

1. 登山教室報告

第2回1年生 7/19(日)

登山形態: 日帰り山行

山城: 二葉山～二ツ城山

人数: 13名 (スタッフ含)

2 回目は前回より歩く距離をのばしてみました。コロナ対策としては 1、2 年合同で 2 班に分かれて行動しました。梅雨の中の晴れ間での山行となり熱中症が心配でしたが、全員無事、予定のルートを歩く事ができました。(指導部長 森本 寛)

『2 回目の登山教室に参加して』

(登山教室 1 年 島崎 睦子)

今回は、熱中症に気を付けながら、行動食で地図を確認しながら歩くという目的でした。心配していた雨は降らなくて良かったのですが、曇った天気、湿度が高く、蒸し暑い感じでした。

熱中症にならないよう水分と塩分、そして、ばてないように行動食もこまめにとるように心がけました。実際、汗をたくさんかいて、持って行った水分 2.6 リットルぐらい飲み干しました。

汗をたくさんかくと、足の痙攣が起こりやすいから、水分と一緒にミネラルが含まれている岩塩をとるの

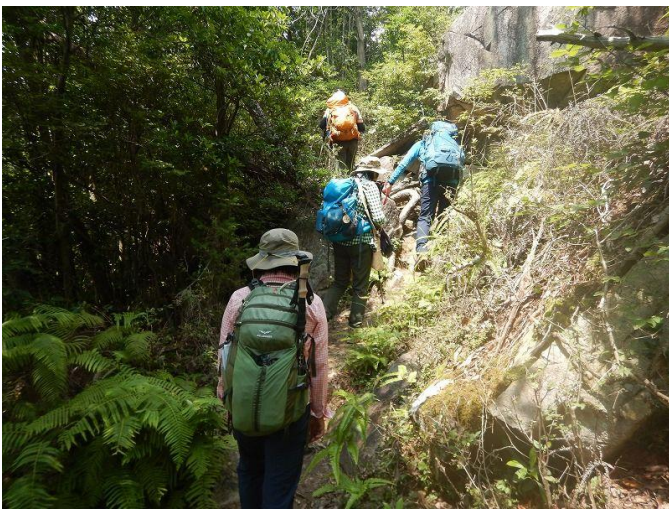
がいいと教わりました。実際、1 年生の参加者の 1 人が、足がつりそうな感じになった時、すぐ水分と岩塩をしっかりと、足を冷やし、テーピングの処置をしてもらったら、嘘のように回復されたのも見て、実感しました。

今回は、1 年生が交代で先頭を歩くことになって、地図と地形をよく見ないとコースを間違ってしまうので、すこし緊張しました。難しかったのは、登山口を見つけることと、分岐を見落とさないようにすることでした。

コンパスの使い方に関しては、行く方向を調べる使い方とクロスベヤリングといって、目標物からの角度で現在地を調べる使い方を教わりました。現地では、操作のしかたを教わってその通りするだけで、原理がよくわかっていなかったけれど、翌日、森本さんによる詳しい説明の動画を見てよくわかりました。

朝早くからの長時間の縦走で、疲れましたが、みんな無事完走出来て良かったです。夜はバタンキューでした。





(写真提供 森本 寛)

2. 芹澤雄二さんの投稿紹介

(会長 山田 雅昭)

比婆山国際スカイランの第1回大会からの招待選手でスカイランに27回連続出場、現在はアドバイザーとしてお馴染みの芹澤雄二さんが、朝日新聞山口県版の「オピニオン」に投稿をされていたので、ご紹介します。投稿は7/28付同紙に『「おいあくま」目指せ富士山頂』として掲載されましたが、ここに紹介するのは芹澤さんの原文です。

『富士登山道閉鎖でショック』

(保険外交員 芹澤 雄二 山口県防府市 58 才)

ついに、恐れていた事が起きてしまった。

この夏、富士山頂に登る山梨県側と静岡県側の登山道閉鎖のニュースである。

私は、今は山口県防府市に住んで28年になるが、

元々は静岡県裾野市に実家があり、結婚する30才まで住んでいた。

高校2年の16才の時に初めて富士山頂に1人で登って辿り着いた。それからは、毎年一回以上は富士山頂に登っていて、ここ数十年は、山頂の郵便局から知人にカモメールを出すのを楽しみにしてきた。

また、山梨県富士吉田市主催の富士登山競争には、山頂まで行くコースに、昨年まで39年連続出場をしていて、今年で40年連続になる筈だったが、その大会も中止になってしまった。

この大会では、過去10回優勝させてもらっていて、最近は何となく痛みもあり中々よい結果は出ていないが、一年のうちで最大の目標としている大会である。

何とも言えない心の底から湧いてくる怒りを何にぶつけたらよいのだろう。そうか、今こそ誰かから聞いた「おいあくま」だ。おごるな・いばるな・あせるな・くさるな・まけるな。

この言葉を思い出して、しっかり両ヒザ痛を治し、来年の富士山頂登山を目指して、日々練習をしていると思う。



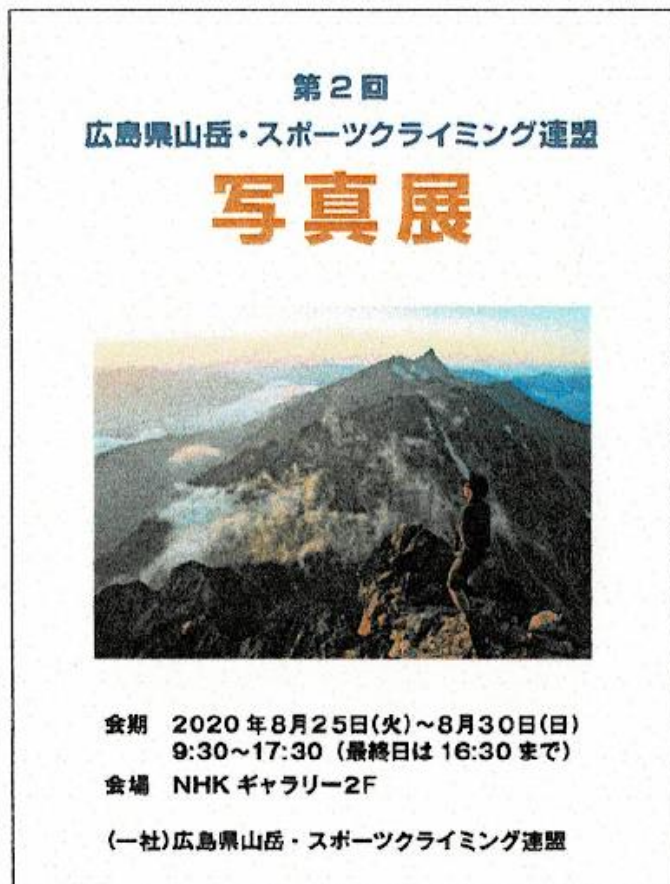
比婆山国際スカイランで挨拶する芹澤さん



3. 第2回連盟写真展案内

(写真展担当 西部)

第2回連盟写真展が迫ってきました。期日は8/25(火)～8/30(日)で、会場はNHKギャラリー(広島市中区大手町のNHK広島放送局2階)です。会員の皆様から寄せられた約40点の山の写真などを展示しておりますので、ぜひご来場ください。時間は9:30～17:30(最終日のみ16:30まで)です。



ブータンヒマラヤ7,000mを超える峰々→

4. 『幸せの国ブータン王国滞在記もろもろ』⑦

(最終回) —神秘の国ブータンの魅力

(副会長 亀井 且博)

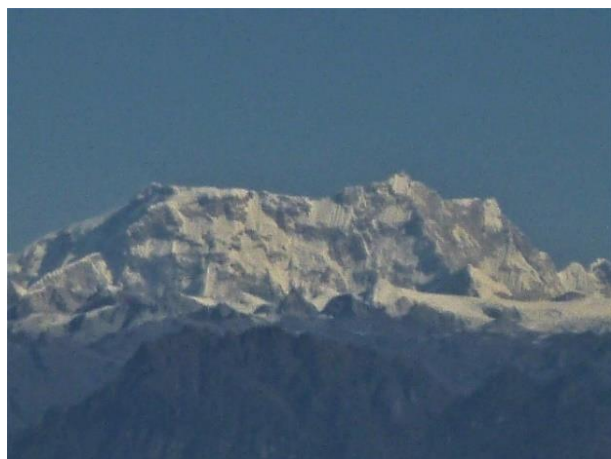
ブータンの魅力とヒマラヤ

ブータンの魅力は？と聞かれると、各人各様であろうが、何といってもその自然であろう。そしてまた、手垢に染まっていない素朴で純粋な国や街や田舎の雰囲気と、はにかんだ笑顔の心優しいブータン人との触れ合いであろう。「神秘の国」「秘境」「幸せの国」と言われる、なんとなく秘密めいたものを感じさせるイメージへの憧れであろう。さらには敬虔な仏教国の仏教寺院と仏像と仏教画といった仏教芸術・美術であろう。

それぞれに魅力を感じるが、私のような山屋にとっての一番の魅力は、やはり自然であり、山とトレッキングとハイキングである。ヒマラヤの麓の、山また山の国であるがゆえに、多くのトレッキング・コースやハイキングコースがあり、よく整備されている。

ブータンの北はチベットとの国境で7,000m級のヒマラヤの峰々が連なっている。7,000mを超える高峰はブータン国内に20座あると言われている。最高峰は7,564mのガンカ・プンスムで、これは未踏の世界最高峰である。その他、白い女神の山と言われ美しいチョモラリ(ジョモラリ)(7,326m)や京都大学隊が初登頂した尖峰でブータンのランドマークのマサガン(7,194m)、テーブルマウンテン(7,094m)、テリカン(7,304m)ジェジェキャンプガン(7,190m)など、山好きにとっては見飽きることも無い、見ていると益々登りたくなる魅力的な山々が連なっており、少し高い峠やお寺からこれらの素晴らしい眺めを楽しむことが出来る。

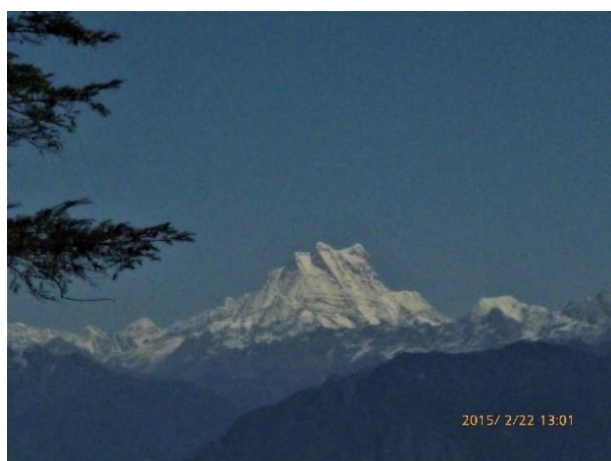




ガンカ・プンスム (7,564m)



チョモラリ (7,326m)



マサガン (7,194m)

トレッキングとハイキング

トレッキング・コースは2～3日の最高標高 2,000 m ぐらいの軽いコースから、1ヶ月間かけてヒマラヤの山懷を巡り、最高標高 5,320mの峠を越えるハードなコースまで、いろいろなコースがある。最もポピュラーなのは空港のあるパロとティンプー間を歩くド

ウック・パス・トレッキングで、4～5 日で最高標高 4,220mという手頃なコースである。ヒマラヤと氷河を間近に見たいならチョモラリ・トレックが手頃である。1週間ぐらいのコースでチョモラリのベースキャンプ 4,040mを往復するルートである。

ブータンでのトレッキングは、謂わば大名登山である。食料、テント、個人装備を含め全ての荷物を馬が運んでくれる。事前に頼めば寝袋等の個人装備も含め、全ての装備を用意してくれるので、雨具と防寒着だけを持って、着の身着のままでトレッキングに行ける。ガイドやコックたちが同行し、テント場に着いたら既にテントが張られて、食事は全てコックが準備してくれる。朝の出発も同様に、テント撤収も含め全てコックや馬方、アシスタントガイドたちが行い、昼食も運んでくれる。トレッカーは何もする必要がなく、何も担ぐ必要がなく、せいぜい水と雨具を持つ程度で空荷で歩ける。申し訳ないような気がするがこれがブータンのトレッキングスタイルである。



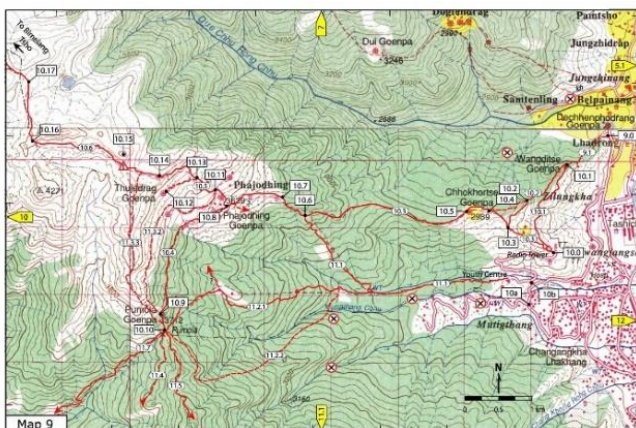
ブータンのトレッキングスタイル (荷物は担がず)

ブータンのトレッキングスタイル
(テントではテーブルで食事)



ブータンのトレッキングスタイル (馬が全てを運ぶ)

トレッキング以外にも日帰りのハイキングを楽しむことも出来る。ティンプーやパロ周辺には日帰りのハイキングコースが多くある。もともとは山の上や中腹にある寺院に行くための道であるが、日帰りハイキングにはうってつけのルートとなっている。観光客にはガイドが同行するが、私のような在住者は何時でも勝手にハイキングできる。私も2年間の滞在中、ティンプーやパロ周辺のハイキングに毎週末のように出かけた。日帰りハイキングと言っても、コースによっては4,000mを超える場所まで登る場合があるので結構ハードなハイキングとなる。



パジョディン・ハイキングコースの地図



パジョディン・ハイキングコースの稜線 (4,100m)

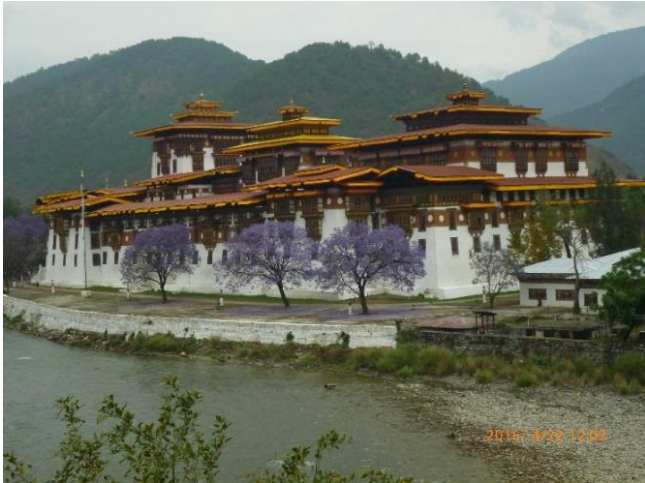
ブータンの観光地

ブータンの観光地で最も有名なのはタクツァン僧院である。ブータンを紹介する本やガイドブック、パンフレットには必ずと言ってよいほど、切り立った岸壁の途中に建てられたタクツァン僧院の写真が載っている。麓から1~2時間で登れる景色の良い、気持ちの良いお寺である。おそらくここはブータンで最も観光客が多く訪れる場所ではないだろうか？ブータンに仏教を伝えたパドマ・サンババ（ブータンではグル・リンポチェと言われている。）が、虎に乗って飛んで来たという言い伝えのある由緒ある寺で、タイガー・ネスト（虎の寝ぐら）とも呼ばれている。ブータン人も多くの人が参拝に来る。ブータンに観光に来てタクツァンに行かないで帰れば、何処に行ったのかと言われるくらいポピュラーな観光地である。



タクツァン僧院

その他、ティンプー、パロ、プナカ、トンサ、ブムタンと言った主要な街には、雄大で荘厳なゾンや古刹が数多くあり、仏教建築物や仏像や仏教画に目を奪われる。



プナカ・ゾン

観光と言えばお寺かゾンに行くか、織物や染色など工芸品を見るか、チェチュと言われるお祭りを見るか、ヒマラヤの景色を見に行くかぐらいで、バリエーションはあまり多くはない。ブータンに行ったけど自然と寺以外は何もなかった、という事になる場合が多いかも知れないが、その「何もない」がブータンの大きな魅力の一つである。



チェチュの仮面舞踊

観光は公定料金制度で

ブータンは私のような仕事で在住している外国人

以外（インド、バングラデシュ等は別扱い）は基本的には観光客扱いで、公定料金制度の元でのビザ取得で入国する。政府から特別な招待ビザを発給してもらわない限り、これ以外ではビザを取得できない。個人でビザ申請はできない。公定料金制度というのは

(1) 現地旅行会社（またはブータン旅行専門の日本の旅行会社）と調整して訪問日程、スケジュールを確定する。

(2) 旅行会社に滞在日数に応じた旅行経費を支払う。

（航空料金＋滞在費 1 日 200～290US\$）

(3) 現地旅行会社がブータン政府にビザを申請する。

(4) 旅行会社が取ってくれたビザ・クリアランスを送ってもらう。

(5) 飛行機のチェックイン時と入国の際ビザ・クリアランスを提示して正式にビザを貰う。

の手続きを経て入国するもので、事前に少々面倒な手続きが必要である。実際には旅行会社が全て行うので旅行者はお金を事前に払うだけではある。そのため、急に思い立ってのブータン旅行は難しく、事前打ち合わせや準備の期間が必要になる。

このビザ・クリアランスは非常に重要で、これを提示しないと飛行機のチェックイン時に拒否されてしまい、搭乗券を発行して貰えない。なにかの間違いで飛行機に乗れたとしても、ブータンの空港で入国を拒否される。

支払った費用には宿泊、食事、移動用車、運転手、ガイド料等全ての費用が含まれ、入国後は酒類等の飲料水、お土産、チップぐらいでほとんどお金を使わない。移動は全て専用車で政府公認ガイドが同行（日本語ガイドもいる）し、ガイドがほとんど全ての面倒を見てくれる。この 1 日 200～290US\$を、高いと思うかあるいは安いと思うかはブータンへの思い次第である。他の国に旅行するように自分で勝手気ままに行きたいところにいつでも行けると言う訳ではないので、少々堅苦しい旅行にはなる。勝手にあちこちされて、傍若無人な行動でブータンの自然や文化や習慣を破壊されるのを避けるための、自国を守るためのブータン政府の観光政策である。

はっきり言って、ブータンでは欧米やその他の先進

国のような快適な旅は期待できない。また、観光国として売りだしているような特別な見どころが多くあるわけでもない。ゆったりと過ぎる時の中でまったりと過ごし、ブータンの人たちとの短い時間の触れ合いの中で、彼らの笑顔と優しさから忘れてしまっていた何かを学び、思い出ができるのがブータンの大きな魅力で、「何もない」がブータンの魅力である。時間に追われまくって自分の時間を持てず、いつも何か見えないプレッシャーの中で、ともすれば自分を見失っている今の私たちには、ブータンからそしてブータン人から学ぶ何かがある。それがブータンの魅力ではないだろうか。それが「神秘の国ブータン」である。

今回でブータン滞在記のブータン事情は完了です。秘境、神秘の国、幸せの国などと言われるブータンに着いて種々の角度から紹介しましたが、少しでもブータンの理解につながれば幸いです。長い間、つたない文を読んでいただいていたありがとうございます。

5. 岳連短信

1. 寄贈御礼

広島やまびこ会『やまびこ』No. 771（8、9月号）

三原山の会『筆影』No. 485（8月号）

福山山岳会『会報』R2. 8月号

広島山岳会『山嶺』第860号（R2. 7月）

2. 賛助会員ご協力へのお礼

前号で、賛助会員へのご協力を頂いた方・団体のお名前を掲載しましたが、個人賛助会員でお名前の漢字・所属会が不明であった方のうち、判明した方を再掲載します。

赤木雅美（福山山岳会）様、森島繁樹（福山山岳会）様

また、前号で紹介した以降も次の方・団体から賛助会員へのご協力がありました。

江種幸男（福山山岳会）様、日本山岳会広島支部様

8/11 現在で賛助会員数は46個人・7団体、賛助金合計74万5千円となりました。改めてお礼申し上げます。

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。

連日猛暑が続きますね。涼しげな沢登りの写真でいくらかでも涼を取ってください。いずれも廿日市のアカナメラ谷で、上は8/1県庁山の会、下は8/8県高体連登山部の行事からです。

